

創立20周年記念誌

特定非営利活動法人
福聚会無量荘のあゆみ
～20年の思いを乗せて～



グループホーム無量荘



デイサービスセンター無量荘

法人理念

新しい地域福祉のあり方を提案し、市民自らデザインする福祉社会の実現の為に高齢者福祉を中心として、子供の健全育成を図る活動や、まちづくり、社会教育に関する啓発啓蒙活動を行なうとともに、特定非営利活動を行なう他の市民活動を支援し、共に豊かなコミュニティの創生を実現することを目的とする。

高齢者など社会的支援を必要とする方が敬われつつ自由に生き生きと社会生活を送れるように、またご家族に安心した時間と心のゆとりを提供し、その環境を整備する。

それらの実施により新しい地域福祉システムを構築し一般化できる福祉モデルを社会に提供する。

◎福聚会無量荘（福聚海無量）の由来

『観音経』の中の「福聚海無量」の一句から頂いている。観世音菩薩の功德は「福を聚めた大きな海のように量に限りが無い」という意味である。つまり観音様を一心に信じれば、福の集まること海の如く無量にあるということである。

“聚”を同音で縁起の良い言葉“寿”に置き換えて用いられる事が多い。ちなみに福寿とは、福德すなわち功德、善行と寿命のこと。この二つが海のごとく無限無量であるというめでたさを意味している。



開所当時のデイサービスセンター無量荘



2回増築した後のデイサービスセンター無量荘

「福聚会」20周年への思い



特定非営利活動法人 福聚会
代表 青田 賢之

福聚会・無量荘が開設20周年を迎えることができましたことは、ご利用者、ご家族、地域の皆様、ボランティアの皆様、行政等関係者の皆様、職員ほか多くの方々のご支援、ご協力のおかげと心より厚く御礼申し上げます。

脱サラで始めた無量荘は、無謀にもまったく福祉の世界を知らない4人によるスタートでした。当時、全国には「宅老所」と呼ばれる小規模施設が少数ながらも存在し、よい介護を提供してご利用者やご家族、地域から高い評価をいただいておりますが、行政の支援が無く経営的にはどこも厳しい状態でした。栃木県は地域のそういった取り組みを支援するために、全国に先駆けて制度を作ったのです。私たちはその「高齢者デイホーム事業」の制度を利用しての立ち上げでした。最初は、高齢者の皆さんにゆっくりくつろいでいただける時間と空間を提供できればよいとの素朴かつ稚拙な考えであり、事業を立ち上げるというような大それたものではありませんでした。ですから、わからないことだらけの毎日で、行政や他事業所へ疑問をきいたり、伺って実際の現場を見せて戴きながら、やっとやっと仕事をしていた状態でした。当時は、ご利用者の皆さんに、「どうしたら楽しんでいただけるか？快適に過ごしていただけるか？」ばかり考えていたように思います。このような無量荘が今日を迎えられたのも多くの方々に支えられたのことに感謝の気持ちでいっぱいです。ただ私たちには、こんな素朴な考えでも手を抜かず、毎日起きる問題に丁寧に向き合ってきたとの自負もございます。皆で作り上げる福祉を大切に、そして信念や理想、地域福祉、時代を見据えながら、また、多くの方々のお力を頂戴しながら、微力ではありますがこれからも、職員一同がんばって参る所存です。これからもご指導ご支援いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

◎「無量の友」ができた経緯

「無量の友」の歌詞は無量荘にボランティアに来て下さった大柿アイ様が作って下さいました。アイ様が無量荘の事を大切に思って下さった事がわかる歌詞です。

ある日、アイ様とある利用者様で、無量荘の歌を作ったらどうかしらとの話になったそうです。そこで小学校の教諭を勤められ、音楽も教えられた経緯から、アイ様が歌詞を考えることになり・・・メロディーは「朧月夜」に決まりました。

日々過ごしている無量荘の日常を思い浮かべながら、この歌詞を考えたとおっしゃっていました。そして、ご主人に習字で歌詞を書いていただき、今の「無量の友」が完成しました。この歌詞は今でも無量荘に飾ってあります。

無量の友

キヨ タカダイ ツド ワレラ
① 清き高台に 集いし我等

シキオリオリ ハナサ ホコ
四季折々の 花咲き誇る

ホホエ マナザ トモ
微笑む眼差し 友の顔

ココロヤス
心 休まる 無量荘

トキ キザ タク ツカ
② 時の刻みを 巧みに使う

シキオリオリ シゼン アイ
四季折々の 自然を愛し

ウタ ココロ
歌やカルタで 心をいやす

ゴカン タノ
五感で楽しむ 無量荘

特定非営利活動法人福聚会の沿革

平成 8 年 11 月 鹿沼市板荷に宅老所無量荘開所
平成 11 年 4 月 栃木県で初めてNPO法人格取得
平成 12 年 4 月 介護保険法の施行と共に新たに介護保険事業者として
デイサービスセンター無量荘をスタート
併せて居宅介護支援事業所無量荘開所

平成 13 年 11 月 福聚会無量荘開所 5 周年記念式典

日時：平成 13 年 11 月 24 日 午後 1 時～
場所：商工会議所
内容：講演 宇都宮大学 教育学部助教授 陣内先生
「福祉が地域を変える。地域が福祉を変える。」
5 周年記念パーティー

平成 17 年 6 月 鹿沼市千渡にグループホーム無量荘開所

平成 19 年 3 月 福聚会無量荘開所 10 周年記念式典

「認知症でも大丈夫な地域づくりふぉーらむ」
日時：平成 19 年 3 月 24 日 午後 12 時 30 分～
場所：鹿沼市民文化センター 小ホール
内容：講演 厚生労働省 池田武俊 氏
「福祉の地域作り」～認知症介護のこれから～

平成 23 年 7 月 福聚会無量荘開所 15 周年記念フォーラム

「認知症ついて共に歩み考える地域フォーラム」
日時：平成 23 年 7 月 17 日 午後 12 時 30 分～
場所：鹿沼市民文化センター 小ホール
内容：講演 認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長 長谷川和夫 氏
「認知症のホントの話」

平成 24 年 12 月 鹿沼市千渡にデイサービスセンター和久井亭開所

平成 28 年 12 月 鹿沼市下武子町にデイサービスセンター小杉亭開所

平成 29 年 2 月 福聚会無量荘開所 20 周年記念フォーラム

「2025 年超高齢社会に向けて～福祉の社会化を考えるフォーラム」
日時：平成 29 年 2 月 12 日 午後 13 時～
場所：鹿沼市民文化センター 大ホール
内容：講演① 田中謙一 氏 「介護予防・日常生活支援総合事業のすゝめ」
講演② 飯田大輔 氏 「「地域をケアする」クリエイティブな福祉」

福 聚 会 の 歩 み

手探りで始めた宅老所「無量荘」

特定非営利活動法人 福聚会
代 表 青 田 賢 之

【宅老所無量荘】

挨拶でも触れたとおり素人 4 人で始まった「宅老所・無量荘」は、最初ご利用者がおらず、チラシを作ってポスティングして歩く毎日でした。最初に市役所から紹介されたのは、女性の認知症高齢者でした。その方は、一回ご利用になって、しばらく利用はありませんでした。次に紹介された方は、10 分とじっとしてられず、外に出て行ってしまおう方でした。今考えると妄想もかなりあったようにおもわれます。認知症の何たるかもわからず、毎日手探りの対応でした。送迎車も無く私の自家用車での送り迎え、退屈すると毎日ドライブ、狭い部屋はカラオケを歌っているソファの後ろで、昼寝をされている方が居る状態で、快適とは程遠い環境でした。必要に迫られ皆で交代で資格取得、研修への参加や、助成金の申請をし、送迎車購入、部屋の増築を行ったのもこの頃でした。ご利用者も少しずつ増え、「当たり前で自然なサービス」を提供して行こうと、職員の意識も向上して行きました。まだ少人数で、小回りもきき、自由に食事に行ったり、花見、紅葉狩りなど、ご利用者とともに楽しい毎日を過ごすことのできた時期でもありました。地元の板荷中学校から定期的にボランティアを行いたいとの申し入れを戴いたのもこの頃で、その活動は今日まで続いています。

お年寄りも、御家族も

心にゆとりをもって、豊かな時間を過ごすために・・・

“住み慣れた家で普通の暮らしがしたい” 年齢にかかわらず安心して生活できる場所は誰にとっても大切なものです。年を重ねるごとにその思いは大きくなっていきます。でも、思いとは反対に足腰は弱り、何かと人の手助けが必要となり、“友人と話がしたくても外出できない”。“何をするのもめんどろくさくなって家の中でぼーとしています”。などという事が多くなりがちです。私達福聚会無量荘は“年をとっても地域の中で生き生きと暮らしたい”というお年寄りや御家族を応援させて頂こうと平成 8 月 11 年にオープンしました。スタッフ一同御利用の皆さんに楽しく過ごしていただける様お手伝いしてまいります。(宅老所「無量荘」開所当時の施設案内より抜粋)

寝耳に水だった「介護保険」とデイサービスセンター「無量荘」

特定非営利活動法人 福聚会
代 表 青 田 賢 之

【デイサービスセンター無量荘】

県の「高齢者デイホーム事業」に参加し、宅老所を開設したグループが当時県内に20箇所近くあり、そのグループが集まり「栃木県デイホーム連絡会」を組織していました。わからないことだらけの我々は早速連絡会に参加しました。そのころ話題に上っていたのが、「介護保険」（平成12年4月施行）と「特定非営利活動促進法（NPO法）」（平成10年12月施行）でした。来るべき超高齢社会を支える仕組みとして、「介護保険」が導入されることになったのです。栃木県では、介護保険が始まったら「デイホーム事業」は廃止して、小規模事業所には、法人格をとって介護保険事業所に移行するように指導していました。介護保険事業所の運営には法人格が必要で、有限会社や株式会社を選択するグループと施行間もない「特定非営利活動促進法」による法人＝NPO法人を選択するグループに分かれました。私たちはもとより収益を上げることが目的にしておりませんでしたから、当然NPO法人を目指したのですが、どこの窓口に行ってもNPO法人を知っている方がいなくて、そのつど説明して納得してもらう必要がありました。法人申請に行ったら、他にだれもいなくて拍子抜けした記憶があります。まだ、NPO法人について周知されておらず、私たちの団体が栃木県NPO法人の第一号でした。法人格をとり、介護保険導入前に高齢者デイサービス事業に参入し、介護保険導入と同時に居宅介護支援事業所を併設いたしました。制度の縛りは厳しくなりましたが、経営的には収支が安定し、より専門性の高い介護を目指すことが可能となりました。食堂、入浴施設を増築し、職員も増員され、介護の質もどんどん上がって、職員の一人ひとりが自分の理想の介護、理想の福祉をかたり、実現しようとかんばっていた時代でもあります。アイコンタクトも無く、流れるように介護サービスが提供でき、デイサービスで、ここまでの仕事ができるのだと、目を見張ることも多々ありました。

居宅介護支援事業所無量荘あゆみ

居宅介護支援事業所 無量荘
介護支援専門員 石網 秀行

【居宅介護支援事業所無量荘】

要介護者やその家族を介護の専門化（プロ）に繋ぐ仕事である介護支援事業所（ケアマネジャー）いつまでも住み慣れた地域で生活をするためには非常に重要な役割であります。開設当初1人の介護支援専門員であったが、現在（平成29年1月）では4人体制で支援にあたっております。

居宅介護支援事業所無量荘の特色として利用者ファーストを心がけ、担当者の急なニーズにも即対応できるように職員個人に携帯電話を支給しております。開設から20年の時が経過し、ご利用者、ご家族のニーズも少しずつ変化しております。又、介護保険制度も改正を重ね学ぶべきことも多くなっております。2025年に向けて、団塊の世代の方々が後期高齢者となり、多くの方が介護を必要とする時代になります。そして、その大半が在宅（自宅）を中心に生活をされてゆくでしょう。まさしく、今後求められる在宅介護、医療や地域との連携において資質の向上は元より、介護支援専門員がプランニングだけでなく、その人を中心としたインフォーマルサービスの開発や仕組みづくりも早急な課題となっております。

4年半かかった「グループホーム無量荘」

特定非営利活動法人 福聚会
代表 青田 賢之

【グループホーム無量荘】

通所のサービスを提供していて、ご家族、ご利用者から、泊まりの施設を作っ
てほしいとの要望が多くなってきたのが、通所を始めて5年くらいたったころで
しょうか。中には土地を寄付するから施設を立てて欲しいと言う方まで現れまし
た。何とかそのご要望に答えようと「グループホーム応援団」を立ち上げ、宇都
宮大学の陣内雄次先生のご協力を得て、施設の有様、地域福祉の姿、理想の介護
などを毎月のように話し合い施設作りを進めて行きました。映画、シンポジウム、
講演会などを開催し、集まった方々に「グループホーム応援団」への参加を促し、
一緒に地域福祉を考えました。当時のキャッチコピーは、「あなたは地域にどん
な施設があったら安心して歳をとれますか？」でした。「グループホーム無量荘」
完成までに4年半かかり、認知症高齢者の専門施設なのに、廊下に手すりが無
かったり、全個室にトイレ、洗面所、内鍵、吐き出しのサッシで24時間いつで
も外に出られるなど、他に無い施設が出来上がりました。当然職員のモチベー
ションも高く、「グループホーム応援団」を中心としたボランティアの方の出入り
も活発でした。より完成度の高い施設をめざし、鬼気迫る職場がそこにはあり、
理想の求めすぎから、燃え尽き症候群に陥る職員が出るほどでした。私自身も、
何日も寝ずに働いて、今から思えば大きな事故が起きなくてよかったと思うほど
でした。働き方の問題を検討せざるを得ない状況で、多くの有能な職員が施設を
辞めていった時期でもありました。

デイサービスセンター和久井亭のあゆみ

デイサービスセンター和久井亭
管理者 石網 秀行

【デイサービスセンター和久井亭】

デイサービスは地域の資源。地域の方々がふらっと立ち寄り、地域の居場所
でありたいと願い「空き家」だった一軒家をそのまま活用させて頂いた。

一言で地域との協働といっても事業の安定と地域理解の増進との同時進行は
困難を極め開設後、2年弱は際立った動きは取れなかった。通所事業所の増加の
背景もあり、いよいよ和久井亭の事業継続が厳しさを増してきた。それを救っ
てくれたのが「地域」であった。地域の方々に和久井亭の目指す理念を伝え、「地域
サポーター」としてご支援いただいた事がきっかけとなった。人が人を呼び、支
えてくださる人と情報が集まり、少しずつ地域とデイサービスとの協働がはじま
っていった。又、「グループホームを市民の手で」と始まったグループホーム
応援団がグループホーム無量荘の設立を後押しし、その後「住まい方、暮らし方研
究会」に変わり、千渡地区の将来のビジョンを考える勉強会は和久井亭の地域へ
のアクションプランを考える羅針盤になった。

鹿沼市内にあるNPO団体とも互いの「出来ること」「必要としている事」を
マッチングし、若者、障がい者の就労支援や居場所、引きこもり支援、アンテナ
ショップ設立に至っている。

和久井亭の通所介護においては、「役割」を持って頂く事を活動理念とし、畑
作や収穫物の袋詰め、綿の種取り、調理、配膳、食器洗いなど、本人の出来る能
力を最大限に活かし自分らしく過ごして頂く事が介護予防、生き甲斐の構築に繋
がっている。

地域との繋がりが強くなってゆくと、地域の「困り事」の相談を受けるよう
になり、移動販売（H28,7 NHK 放送）、買い物サロン、引きこもりや障がい者の
居場所（生きいきこっとん村 任意団体）、地域サロン（せんどより道 任意団体）
の設立に至る。

地域のニーズはそこに住む住民の数だけ存在し、絶えず変化するものである。
国（厚生労働省）も示しているとおり、今後の超高齢社会を乗り切る鍵は「地域」
であり、和久井亭は支えあいの仕組みづくりを地域住民と共に考え、柔軟に行動
できるような居場所を目指したい。

福聚会エピソード集

記念誌を発行するにあたって、福聚会職員に経験の中で、印象深いエピソードを募集しました。このエピソードをお読み頂ければ福聚会の歴史を辿る事ができ、かつ、皆様が介護する時のヒントになればと思います。

無量荘らしさ

題名：無量の友 デイサービスセンター無量荘

大柿アイ様は日頃からボランティアで訪問して下さり、無量荘のことを大切に思ってくださいました。ある日、アイ様とある利用者様で、無量荘の歌を作ったらどうかしらとの話になったそうです。小学校の教諭を勤められ、音楽も教えられた経緯から、アイ様が歌詞を考えることになり・・・メロディーは「朧月夜」で。

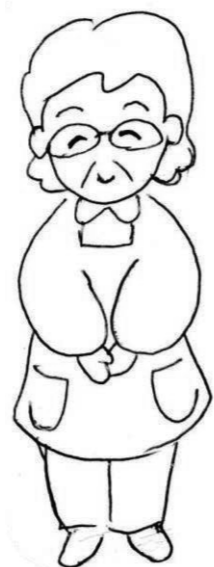
日々過ごしている無量荘の日常を思い浮かべながら、この歌詞を考えたとおしゃっていました。そして、ご主人の長重様に書いていただき、今の「無量の友」が完成しました。

私はデイサービスでの調理業務を経験しており、大柿アイ様は毎週木曜日に調理のお手伝いをして下さっていました。たまたま私の母が教え子だった事もあり、母のこともよく話して下さいました。いつも穏やかで温かくて常に利用者様と職員の事を気遣って下さり、大切に思ってくださいました。私とはとても幸せな時を過ごさせて頂きました。何度もお手紙を頂く機会があり、その言葉の選び方やお気持ちの表現がとても心に響きました。その文章を少しだけ紹介します。

人生の終わり間近になっても 私は ボランティアを始めたことによって「いごちのいい場所を見つけたよ。」

歌うことは 自分も気持ちよく 聞いている方はもっと喜んでいるのよ。 なんて おとくなことでしょうね。 幸を持って歩いているようなもの。 皆さんを喜ばせてあげてね。

大柿アイ様、本当にありがとうございました。
頂いたお手紙と、ご一緒できた時間は、私の宝物です。



アイ様。
かほり着か
よく以合...
みんどの
おかあさん♡

題名：無量荘不思議な話 デイサービスセンター無量荘

○パート1

5月のさわやかな風が吹く頃、利用者様とお茶を飲みながら居間で談笑をしていた時。玄関から「こんにちは！」とはっきりした女性の声がした。

「はい」と返事をして、すぐに玄関に出たが。・・・誰もいない。そのまま玄関の外へ出て周辺を見渡しますが、誰の姿も見えない。利用者様から、「誰だった？」と聞かれるが、「どなたもいません。」と答えるしかなかった。2名の利用者様も、「はっきりと声が聞こえたのに、不思議だね。」

「楽しそうにしていると、いろいろなものが遊びに来たくなるのかな。」

「坂の上はお寺と、お墓だしね」

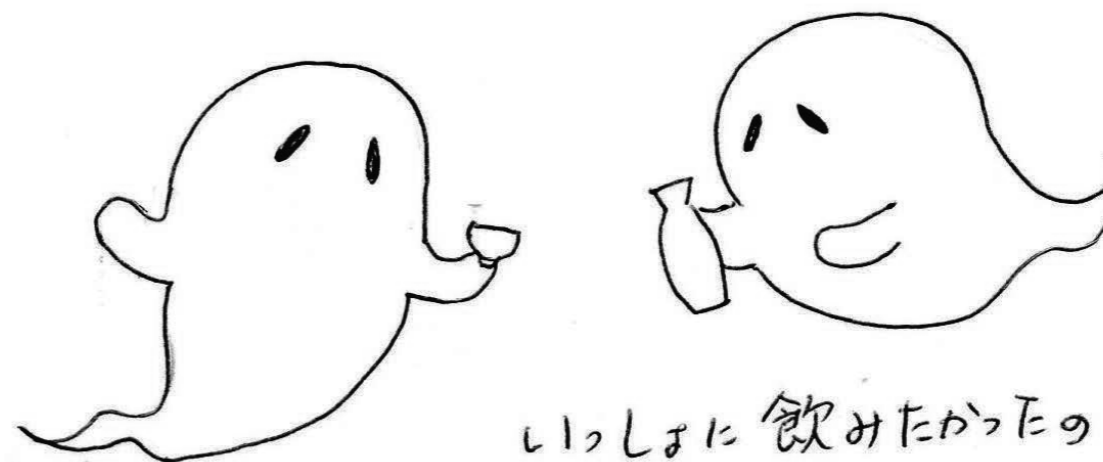
○パート2

利用者様の誕生祝いに食前酒を準備していた時の事・・・

お盆に、お猪口を並べ少量のお酒を注ぎ、後ろのテーブルへ移し、おかずの配膳を始めた時。

後ろで、「パーン！パリン！！」と音がした。振り返ると、お盆の中心部分にあったお猪口が割れていた。驚いた。何が起こったのかわからず、割れたお猪口だけそっと取り除いた。他のお猪口は割れていなかった。不思議な出来事でした。

おどかしてごめんね



いっしょに飲めたかったの...。

○パート3

無事1日が終わり、利用者様をお送りした後、掃除をしていた時の話。

事務職員が玄関の掃除を始めたら、電話が鳴り、急いで事務室へ戻った。電話が終わり玄関に戻ると、「脱ぎっぱなしのサンダルが、揃えてあった。」と事務職員が驚いていた。

誰が揃えてくれたのか・・・。

ブイとTVを眺めるT様。ハニワのような表情で固まる私。

TVでは料理番組を放映しており、カツオの料理が映し出されていた。郷土料理の紹介で、変わった食べ方をするらしい。

大写しになったカツオ料理をご覧になり、T様は一際大きな声を出された。

「うわ～、マズそ～」

…T様の入居は、波乱を呼ぶな…。私は、半ば確信していた。

2.

波乱のお試し利用から2週間程経った6月のある日、T様は入居となった。

当時、私はT様が入居となる1階の介護主任をしていた。

やるぞ。私が中心となって、T様をお迎えするのだ。

私の決意とは裏腹にと言うか、予想通りと言うべきか、入居直後から現場は混乱した。

女性職員には卑猥な発言を。男性職員には暴言を。

ご本人の意にそぐわない事を職員が言ったり、したりすると、職員の男女を問わず杖を振り上げ、職員の顔擦れ擦れに振り下ろす。物にあたり、壁やテーブルを凹ます。叫び声を上げる。

現場は戦々恐々とした。

「怖くて声をかけられない」「セクハラ発言が度を越えている」「発言だけじゃない、手が伸びてくる」「大声や物にあたる音で、他のご入居者の皆さんの迷惑になっている」「男性職員の介助には暴言を伴う激しい介護への抵抗がある」……

職員からは、悲鳴のような意見があがった。

さらに、T様は、症状は軽いながらも糖尿病をお持ちであり、召し上がって頂ける食事の量には限りがある。食事の度にT様は荒れた。「メシが少ない！」

また、T様は荘内でじっとしている事が嫌いな方でもあった。日中、外を出歩きたいという要望が日々聞かれるのだ。グループホーム無量荘では、ご入居者のご要望にはできる限りお応えしたいと考えている。T様のご要望にも、当然お応えした。しかし、グループホーム無量荘のご入居者は、T様だけではないのだ。

T様が散歩に出られる時には必ず職員が付き添う事になっている。職員が1人出てしまうという事は、その間、現場が手薄になるという事に他ならない。日中の穏やかな時なら、何の問題もなかった。問題は、早朝や、入浴が始まる時間である。

日中は早番・日勤・遅番と3人配置されている職員も、早朝は、明け番者と早番者の2人しかいない。その時間帯に外出に付き添えば、他の8名を1人で見守らなくてはならない。入浴介助を行っている時間帯も同様で、1人は入浴介助、1人はT様の付き添いという事になると、残りの7名を1人で見守らなければならない。歩行注意の方は複数人いらっしやる。見守りが1人では、ご入居者の安全を確保する事ができないのだ。

外出をお待ち頂くようお願いすると、やはりT様は荒れた。

「俺はここから出て行く」と、強引に離荘しようとして行かれた事もある。

現場には、疲弊が見えていた。職員の中からは「グループホームに居て頂く事はできないんじゃないか」という、退居を提案する意見も出てきていた。

“退居？”

“T様は、グループホーム無量荘には向いていない？”

“クソくらえだ”

職員への暴言。卑猥な発言、行動。他のご入居者への暴言。雰囲気壊す。

そういう認知症の方に、その方らしくお過ごし頂けるようにするのが、プロの仕事ではないのか。何か、方法があるはずだ。

3.

T様は、孤立しつつあった。親しく会話を交わすご入居者もいない。

もちろん職員は無視などしないが、必要最低限の会話しかしていないように見受けられた。

「食事の支度ができました。」「薬をお届けに来ました。」

淡々と、要件のみを伝える言葉。T様と関わる機会を、できる限り避けているようだ。

T様の口数も少なくなっている。ジリ貧である。

職員が心を開かなければ、心を開いて下さるご入居者などいない。

緊急に、職員に召集をかけた。もちろん、T様の対応について話し合う為である。

会議の場では、T様の現状を確認するところから始めたが、職員からは、否定的な意見が相次いだ。職員たちの表情も暗い。

退居も止む無しという流れになりつつあった。

そんな中、ある女性職員が小声でつぶやいた。

「Tさん、植木屋さんだったんですね。」

それが、きっかけだった。グループホーム無量荘は、敷地内に多数の庭木が存在している。ベニカナメ、プラム、柿、等々…。数は多いものの、職員に植木の知識がない為、半ば放置されているのが現状だ。元造園業の経験と技術、知識を活かして、植木の手入れをT様をお願いしてみようという事になった。

さっそく次の日から、T様に作業をお願いする事とした。

「植木、いじっていいの？」

心なしか、目に光が宿るT様。

「私たちだと、全然分からないので…。Tさんなら分かるかと思ひまして…」

「俺は、ずっと植木屋やってたんだ。」

生き生きとした表情で、かつての饒舌が蘇った。職員と共に作業を行いながら、いろいろな話を聞かせて下さるT様。

「男（職員）だから嫌だ。」といった言葉や、卑猥な発言は聞かれなかった。

当初は、T様と関わる事自体を恐れているように見えた職員たちも、T様と積極的に関わるように心がけた。少しずつ、職員の、T様に対する向き合い方、T様への見方が変わって来ている事を感じていた。

反面、外で作業したいというご希望は更に強くなってきた。グループホームの職員配置数は変わっていない為、早朝、入浴時間に作業にご一緒する事ができない状況は変わっていない。

共に作業をする事により、T様との距離を縮めつつあった職員達に対しても、やはり思い通りにならない時には大声をあげられるT様。

次に行くべきは、「お1人で外に出て頂ける」ように環境を整える事だった。それには、ご家族の了承を得なければならない。ご家族に連絡をし、グループホームに足を運んで頂いた。

そこで、今までの経過から現状に至るまでをご説明し、T様にとって、植木の手入れが生きがいとなりつつある事をお伝えした。そして、「お1人で作業をする事」のリスクについても、厳重にお伝えした。ご家族は、「それで、父が楽しく穏やかに過ごせるなら」と、了承下さった。

面談だけではなく、書面にそれを残し、サインと印鑑を頂いて、T様にお1人で作業頂く為の環境が整った。

4.

現在、T様は思い立った時に外に出られ、思い立った時に作業をされ、椅子に座ってご自分の仕事した庭を眺めている。

寒い季節には「俺は寒いのは嫌だから外に出ない」とニヤリとおっしゃり、春が来ると冬眠から覚めた熊のように作業を再開される。冬の間に肉のついた体をゆすって、「少し太ったな。暖かくなったから動かないと」と笑われるT様。

糖尿病の数値は、安定している。

女性職員の卑猥な発言は相変わらず聞かれ、男性職員への拒否もしばしば見られるが、それも、T様らしさだ。

時折、思い立ったように新たなご要望をおっしゃり、大声をあげ、杖を振り回して主張する姿も相変わらずだが、職員とT様の間に、かつてのような距離感はない。

これからも、T様に思い通りのワイルドな生活を送って頂く為、私たち職員は、壁にぶつかる度に「ああでもない」、「こうでもない」と、議論を重ねるだろう。

見学にいらした方からは、「入居者が、1人で外を歩き回って庭仕事をしている施設は見た事がない」と驚かれる。

なんの事はない。T様らしさを追求した結果、そういう形になっただけの事だ。ただ投げっぱなしだけではなく、前述のように、リスクを踏まえた上での決定である。

議論の場では、ホーム長、管理者、主任、一般職員、パート職員等、雇用形態や役職は関係ない。

『ご入居者の為に』

立場を超えて議論を交わす事ができるのが、無量荘らしさなのだと思っている。

題名：トイレ移動は気配りから デイサービスセンター無量荘

男性ご利用者A様、来荘時はほぼ失禁、ももひき、ズボンまで汚れている事もしばしば。

朝、到着すると真っ直ぐトイレの声かけをさせて頂きます。しかし少し気に障るような事があると怒ります。声も大きい、とにかく怖い。一喝されると「シュン」としてしまいます。一度お断りされると入浴まで交換は難しくなります。こんな時は入浴の順番を早めをお願いするしかありません。

声掛けはその場合、状況で色々工夫をしています。

「板荷は市内に比べると2、3度気温が低いそうですよ。家族様が暖かい下着を用意して下さいました。ありがたいですね、優しい家族さんですね。せっかく準備して下さいましたのでこちらをはいってみませんか？」

「おはようございます。今日は良いお天気で暑くなりそうです。あら・・・Aさんズボンがうしろ前が逆になっていますよ。良かったらこちらではきかえていきませんか？」

明るく笑顔でさりげなく、決してプライドを傷つける様な事はいいません。ご利用者に嫌な思いや不安にさせる様な事は言わない、やらない。無量荘が大事にしているところです。

グループホーム無量荘

U様は、入居されてすぐにユニットのリーダー的存在でしたが、ご家族の来荘が遠のき、大切なお兄様を亡くされた喪失感から、入浴して頂けなかったり、服薬して頂けなかったり、離荘、物盗られ妄想、暴力、他居室への侵入、大声など、様々な周辺症状が見られました。

暴力は、職員だけではなく、他ご入居者にまで及ぶ危険性がありこのままでは退居の可能性がでてしまう程、緊迫した状態でした。

なんとしても退居は避けたいと、ケース記録から症状の出た経緯や具体的な事例を見直し、ケース検討会を緊急に開催し、ご家族の思いや今後について話し合いました。

ご家族には、来荘の機会を増やしていただき、U様の言葉を否定せずに受け止めていただくことをお願いしました。同時に精神科受診を勧め、看護師同行にて受診いただき、日々の状況から薬の調整をしていきました。

入浴して頂けない時には、毎日清拭と足浴を、居室から脱衣室、浴室へと場所を少しずつ移して行き、時間も気分の良さそうな時間に入浴のお誘いをして入浴していただけるようになりました。服薬拒否には、飲み易いようゼリーなどの工夫を試みましたが、形状の問題ではなかったため、服用いただけるかお聞きしてお勧めすることでクリアできました。離荘にはお止めせず、後方より付かせていただき、タイミングを見てお声掛けし戻っていただくように対応しました。早朝の離荘が多かったので、早番が早出残業という形で離荘に備えました。物盗られ妄想は、かなり他ご入居者に危険が及ぶ行為がはじめておられたため、他ご家族了解の元、目につかない場所にお預かりさせていただきました。ただし、こちらの対応は、一時的には効果がありますが、周辺症状そのものに対応するには、よい方法ではないと思われま。会話を増やし、決して否定せず受け止め、役割を持っていただくことを続け、薬の調整も上手く行き少しずつ症状が柔らかいてこられ、退居にならずに済みました。しかし、U様のように上手く行くことばかりではありません。

私には、ずっと後悔している事例があります。グループホーム無量荘では、共用型デイサービスを行っています。ご利用者のT様は、大声、暴力が耐えない方でした。全身の体重をかけて、拳を振り上げられる為、避けるとT様が転倒してしまう為、職員は避けることができず、青アザが耐えませんでした。暴力が傍におられるご入居者に及びそうになることが、しばしばみられ、ご入居者の身の安全を守る為、ご利用をお断りしてしまいました。

ご利用時には、怒りながらも家ではお入りにならない入浴もされ、時には笑顔も見せてくださっていました。また、ご利用されなくなってから、何度かお一人で来荘されました。T様にとって嫌な思いだけでなく、ご自分の居場所が無量荘にはあったのかも知れません。

ご利用をお断りしたのは、私たちが困ったから。T様やご家族の困り事に目をむけなかったから。ご入居者の身の安全を確保することは当たり前のことですが、私たちの困りことを解決する建前だったかも知れません。お断りする前にもっと出来ることがあったように思われ、後悔ばかりでなりません。退居やご利用のお断りは、介護職としての敗北ではないでしょうか。

題名：今日もどこかへ グループホーム無量荘

「お兄さん」「今日はどこにもいかないんですか？」

今日もいつものように朝食後に職員にお伺いをたてる1人のご入居者がいた。

「海行きたいですね。」「那珂湊がいいですね。」

ニコニコと楽しそうに話しかけてこられる。私も否定はせず「そうですね。天気もいいですし行きたいですね。」と言ってみるものの、さすがに海無し県の栃木県から那珂湊のある茨城県までは、ちょっとドライブ…と言うわけにはいかない。そんな同じようなやり取りの日々を繰り返している時、ふとホーム長の言葉を思い出した。

「できない理由を並べるんじゃなくて、どうしたらできるのかを考えよう。」

確かに私は「海に行けたらいいな」「楽しいだろうな」とは思っていたが、忙しいし職員も揃わないから無理、と勝手に決め付けて、行かない（行けない）理由を並べることで自分を正当化していた。どうしたらその方を海へお連れできるのかを2～3日勤務表とにらめっこし、行けそうな日の当日の朝「やるしかない」「行っちゃおう」と自分に言い聞かせ管理者に電話。

「今日ご入居者を海へお連れしたい。」

管理者は初めびっくりしていたが、冷静になり、いくつかの質問をした。

私の中では職員（私）1名とご入居者3名で行けるだろうと思っていたが、何かあった時が心配とのことで休みだった看護師に電話すると快諾してくれ、職員2名ご入居者3名で管理者から了承を得る。主任にもその旨話をする「行くだらうなと思っていた」とのこと。安全面やタイムスケジュールを確認してもらい了承を得る。当日出勤の職員にも説明し了解を得てご入居者の所へ。

「お兄さん今日はどこも行かないんですか？」

と挨拶もそこそこにいつものやりとりが始まる。私が「今日は海へ行きましょう。」と言うと、

「本当ですか？」「わぁ、嬉しい。」とすぐさまご自身の居室に行き準備をし始める。

「どこの海ですか？」「高速代払いますから。」等楽しそうにおっしゃる。

いざ海へ！思いつきのスケジュールのため、大きな目的地の1つが休みだったというアクシデントはあったが何とか別の場所に対応し、美味しい食事も食べられ、風が強かったけど海を満喫し帰ってくる事ができた。

「良かったですね。」「やっぱり海は良いですね。」とその方も満足して下さった。

私も達成感と満足感、そしてこんな無謀な計画を「ダメ」の一言で切り捨てるのではなく、快く了承してくれた無量荘の職員皆さんに感謝をし、これが無量荘だな！と改めて感じる事ができた。そして次の日、出勤するといつもの声が聞こえてくる。

「お兄さん」「今日はどこにも行かないんですか？」と。

私は口角を少し上げながら思う、「よし、次はどこにお連れしようかな。」



グループホーム無量荘

無量荘では、丁寧な介護を常日頃から心掛けています。

かなり前の敬老の日に関なことがありました。その日、敬老のお祝い品をホーム長からご入居者の皆様、お一人、お一人に手渡しする予定でした。

そこで、私のユニットでは、男性が一番に、次は、年長者からと順番を決めてありました。もう一つのユニットの担当者に確認すると、「別に順番なんてどうでも良い。」という返事が返ってきました。ご入居者は、良くも悪くも日本の古き時代に教育を受けて来られた方たちです。女性や年少者が先に前にでることが、良しとされない時代を過ごされて来られた方たちです。答えた職員の育った環境とは大きく違っていたとは思いますが、「どうでもいいこと。」と片づけてしまうか、配慮するかで、丁寧さが変わってくると思います。

こんなこともありました。朝食の盛り付けをU様がしてくださっておりました。ところが、納豆を分けてくださっているではありませんか。U様は、ワーファリンを服用されておられるため、納豆は召し上がれません。しかも納豆が好物でおられるのです。U様が、一言、「納豆、おいしですよ。」と。U様に申し訳ない気持ちで一杯でした。U様をお願いした職員は、悪気があったわけではないですが、軽率だったと思います。

何かのお誘いをして、お断りをされることってあると思います。そんな時良く見かけるのが、お断りされた方の隣の方を続けてお誘いして、お断りを受けている職員の姿です。もしも、自分の隣の方が、「嫌だ。」と断っておられるのを聞いていて、すぐさま隣の方がおられる状況で誘われたら、「はい。」と言えますか？遠慮しませんか？

「丁寧な介護」とは、その方の立場になって考えることだと思います。もっと簡単に言えば、自分がされて嫌なことはしない。当たり前なことだと思います。



入浴

題名：入浴して頂くには・・・ デイサービスセンター無量荘

お風呂の嫌いな人はいつの世にもいるようで、Bさんは2月に始めてご利用されてから、6月になっても1回も入浴していないご利用者です。又、来所され1時間もたたないうちに「家へ帰る。」と激しく訴えられ、周りのご利用者にも影響がでてくるので、昼食後すぐにご自宅へお送りしていました。しかも、何度入浴をお勧めしても、「家で朝風呂に入っているから入らない。」とか「昼間に風呂に入ると風邪をひくから入らない。」と拒否し続け、5ヶ月。ご自宅でも入浴している様子は無く、軽く清拭しているようですが、かなり臭います。朝、お迎えに行き、車という密室に入った瞬間！言葉にならない臭いが車の中を駆けめぐります。気を悪くされないように、軽く窓を開けて走行するもニオイは消えず、クラクラしながら運転していました。

ご利用者の意思を大切に無量荘職員も、夏になるとあちこちから「臭うよね。」「入浴していただかないと・・・」「どうする？」って事になります。当のご本人はいたってマイペース。お風呂にお誘いして、気分を害されると「勝って来るぞと勇ましくー。」とお得意の歌の独唱ではぐらかされます。スタッフからいろいろな案が出て来ます。「お風呂お1人でどうぞって、場所だけ使ってください？」「はすかしいのかも？」「最終手段でぬるいお茶でもかけて職員があやまる・・・」「本気で怒って来ていただけなくなるかも？」さまざまな戦略を考え、実行してみましたが、あえなく撃沈。

そんなある日、1つのきっかけが生まれました。Bさんと私は2人で散歩に出掛けた時の会話です。

私：「Bさん今日も暑いですねー」

Bさん：「そうだな孫！（私はBさんから孫と呼ばれています）」

私：「こんな暑い日は、2人の子供を風呂に入れるのは大変ですよ。」

Bさん：「あんた若いのに2人も子供がいるんだなー。うちの孫も2人子供がいてあんたに顔がよく似ているんだよ。だから孫って呼んでるんだよ。」

私：「そうですか～、ありがとうございます。」

Bさん：「子供っていえば、夜の方は若いんだから毎晩だろ？」

私：「いや～そんな事もないですよ。（いきなり、びっくり）」

Bさん：「そうなんか、なんなら私のかしてやろうか？」

私：「いや～いらないます。（何を貸してくれるんだ？何を！）」

Bさん：「わたしも、じいちゃんが生きていた頃は毎晩だったからな～」

私：（晩酌なのか？でも・・・ご主人が先に他界されて寂しいのだろう。チャンス！Bさんにはお色気作戦で行くとしよう。）

「Bさん。色白ですね～。（色白は昔の美人の代名詞）わたしで良かったら、一緒にお風呂に入ってお背中流させていただけませんか？」

Bさん：「あんたもお風呂に入るんだな！じゃあこの次来た時な！」

私：「はい！是非とも。」

何はともあれ約束をした私は、うれしくて次回のご利用が待ちどうしくてたまりませんでした。次回の利用の日も私が送迎に伺い、車の中でも「Bさん、今日お風呂一緒に入りましょうねー。」と恋人気分な猫なで声でBさんにアプローチ。Bさんも「そうだない。」と意気揚揚。こうして、お色気作戦は始まっていったのです。

今日、入浴当番では無かった私は、入浴スタッフと念入りに話し合い10時半頃、浴室を空けてもらいました。そして、10時半。恐る恐るBさんに近づきます。

私：「Bさん。お風呂の準備が出来ました。一緒に入りましょう。」

小声でささやきます。するとBさんも小声で、

Bさん：「そうだない。行くか。」

ようやく入浴して頂ける気持ちになられたのですから、これからの入浴介助の方法やご気分によって、今後入浴していただけるか、しないのかの瀬戸際です。変なプレッシャーを感じていました。Bさんも裸になり、私も入浴スタイル（ハーフパンツとTシャツ）で、初めての入浴介助スタートです。ご気分を害されないように彼女を持ち上げ、持ち上げ。おだてて、おだてて。洗体もようやく終わり、いよいよ湯船へ。Bさんが湯船に入ったその時です。

Bさん：「早く、孫も入れよー。」

私：（来たー。一緒に入るってやっぱり一緒に？・・・でもこの機会を生かさなければ継続は無いと思った私は・・・）「はい。今すぐ。」（裸になり）・・・と気持ちよく、入浴しました。

Bさんは寂しかったのだと思います。そしてご自分の居場所を無量荘の中に見つけられ毎回入浴を楽しみに下さるようになりました。



題名：認知症周辺症状に精神疾患が加わり対応に困難をきわめた事例 グループホーム無量荘
H27.4月頃より、物盗られ妄想、夜間断眠で良眠が出来ない。日中、朝、昼問わず突然の眠気（異常な眠気）に襲われる。また茶碗、お箸を落とされ、変だとの自覚がない。
7月不整脈出現、薬物調整。

以後も被害妄想、盗られ妄想が増強していく。更に易興奮性で気分がむらが多くなる。ご主人が職員を叩いたり、つねる、蹴とばす等がみられる事が多くなる。黙っての離荘もみられた。

8/3、ご家族の希望もあり、精神科受診。（看護師同伴）

医師より認知症の薬は精神科で状態を見ながら薬の量の調整をしていきたいとの意向あり、内科から精神科へと変更となった。以後、向精神薬との併用と家族が夕方から泊まって頂き、本人の心の安定を計った。

暴力行為には常に職員が側に寄り添い話しかけて不安や緊張を和らげられるよう対応を心がけた。受診においても医師との協力にて早目早目の受診対応を行った。

入浴での清潔保持に拒否が続いており、1ヶ月以上は入浴しない事があった。外出し、家での入浴を試みたが入浴できなかった。ご自分の事は何でも行う方でしたので1人での入浴を勧めたが、かたくなに拒否された。職員を替え、お声かけのお誘いも変え、対応試みるも“入らない”と強い口調で返される。

ある時、入浴もこの所出来ていなくて足を見て欲しいと職員から連絡があり、
「〇〇さん、今日は！足のカサカサはよくなってきていますか？かゆくないですか？」
「お薬、娘さんからあずかっていますので、足を見させて下さいますか？」
「分らないけど～」と靴下に手をかけ、脱いで下さる。だいぶ赤暗く又白っぽく皮膚が乾燥してる。爪ものびている。白癬の爪なので肥厚して固くて切りにくい。お風呂に入ると切りやすいな～と思う。「爪がのびていますね。」

爪の長くのびているは認めて下さる。

「切った方が良いですよ。でも固いので柔らかくなってから。お風呂に入ると柔らかくなって切りやすいですよ。」

「お風呂に入ってからの方が良いですか？」と返される。

「お風呂に入ってから私がお切りいたします。丁度、午後お風呂が沸きますのでいかかですか？沸いた時、お声おかけしましてもよろしいですか？」

「ハイ、よろしくお願ひします。」

14時少し過ぎに居室に訪問、臥床中、ノックの音に「ハイ」と返事あり
「お風呂のお湯が沸きましたのでお風呂にどうぞ。あがられたら足の爪切りをさせて頂いてもよろしいですか？」

「ハイ」と起床される。「自分で行けるからいいよ。」と話される。

入浴当番の職員には事前に伝えてあり、早目に入浴体制をとって頂く。自ら入浴場に入っていかれ入浴が出来た。（何回も入浴場にご案内させて頂いているので知っておられる。）

この入浴も日頃からの何かと入浴のアプローチがあったからこそ、スムーズな入浴に繋がった。又精神状態も落ち着いてきている事もスムーズに受け入れられる要因の1つと考える。あきらめない事が次につながることを感じた。

デイサービスセンター無量荘

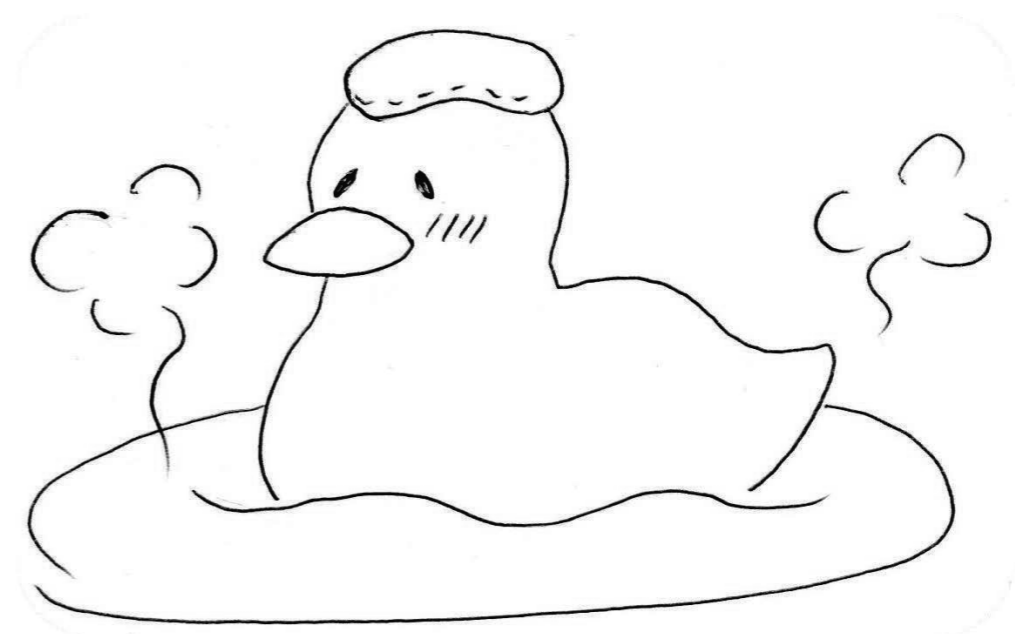
A様（男性80代）は穏やかな性格のお方です。ご利用当初はあまりご自身からお話しされる様子は見られず、穏やかながらどこか話し難い方という印象を受けておりました。

そのようなA様ですが、家族様より入浴サービスのご希望も頂いており、入浴のお誘いをさせて頂くのですが、穏やかさから一変、A様の芯の強さがみられます。腰掛けられている一人掛け用ソファーに座り心地が良いのでしょうか、なかなか腰をあげて頂けないのです。

「お風呂はいかがでしょうか？」と「お風呂」と言葉を掛けさせて頂くと十中八九、「入らないよ。」と断られてしまいます。職員皆で色々な声かけを行わせて頂いた所、昼食前が手の消毒の時に他の利用者様も席を立たれるタイミングでの言葉を掛けさせて頂くと腰を上げて頂ける様になりました。そのような言葉掛けで浴室までご案内させて頂いたのですが、洗髪、洗身を済ませ、浴槽へじっくり温まって頂こうとお誘いすると頑なに浴槽へ入られる事を遠慮される様子が見られるのです。初めはまだ暖かな気候だった事とサービスを利用されたばかりで、本人様も慣れていないから少しずつ浴槽へ温まれるよう声かけをしていけばいいのかなと楽観的に考えていたのですが、予想は大きく外れ、秋が過ぎる頃になってもシャワー浴が続いていました。

どうして入って頂けないのか、本人様に「温まりますよ。いかがですか？」と声をかけても「いや、いい。（入らない）」との返答ばかり。まれに浴槽まで入って頂いた時もあり、対応した職員にどのように対応をしたのか訪ねても特別な事はしていないとの事でした。そのような中、ケアマネジャーよりA様が浴槽のまたぎに不安をお持ちのようだとのお話を聞き、ようやくA様がどうして浴槽に入らなかつたのか、どのような言葉を求めているのか・・・理解する事ができたように感じました。その後、A様の入浴介助を担当させて頂いた時に身体を洗い終わられたA様へ「Aさん、とっても暖かいですよ。浴槽に入るのをお手伝いしますから、ぜひどうぞ。」とお伝えした所、浴槽へ浸かって頂ける様になりました。

A様とのこの経験は利用者様のなかなか言葉にすることのできない気持ちをみ取らせて頂く事のいかに大切かを私に再認識させて頂いた経験でした。



題名：入浴の誘い方 グループホーム無量荘

入浴頂けない時のあるT様。入居当初は、とにかくコミュニケーションをと思い、入浴前はT様の話しをひらすら傾聴し、T様が不安に思う事や心配されている事などに対し、安心して入浴して頂いて大丈夫な旨を納得されるまで何度も説明し、何とか入浴して頂いていましたが、何か月か経った頃から同じ誘い方をしても話しを聞いてもらえなかったり、違う話になってしまったり、時にはお怒りになってしまい、「入らない！！」と脱衣所から出て行ってしまふ様な事もありました。

それから何回か入って頂けない事が続き、他職員のアドバイスもあり、お誘いの仕方を変えてみました。まず、居室にお誘いし、居室に行った所で「お風呂が沸きました。お風呂いかがですか？」とお伝えすると「お風呂？今行っちゃうの？じゃ～行こう。」とすんなり脱衣所までご一緒下さり、脱衣所にて再度「お風呂です。」とお伝えした所、「じゃ～入っちゃうから。」と気持ちよくご入浴して頂きました。

その時のT様の状況や表情を見てお誘いする事はもちろん、お風呂という言葉を出すタイミングも考えてお誘いする様にしました。

今は同じお誘いの仕方ですスムーズにご入浴して頂いていますが、その時のT様の状況や職員との関係性によっても変わってきますので、答えは1つではないな…と思いました。

題名：入浴して頂くまで グループホーム無量荘

入浴頂けない時があり、3～4日に1度の入浴のK様、私が入浴のお誘いをする時も「今日は入らないよ。」「昨日入ったからいい。」とおっしゃる。私はいつも「娘！」と言って下さるK様に「K様とお風呂に入るのはいつも取り合いなんです。」「ご一緒したくて今日は譲ってもらったんです。」とお伝えすると少し表情が緩み「何言ってるの～、昔からばあちゃんと入りたいて皆言うんだから。」と続けて「そうなんです。だから今日ご一緒できないとしばらく譲ってもらえないんです。」とお願いすると「わかったよ！塩1つまみ入れた？」と笑顔で入って下さる。

必ずしも毎回この声掛けで入って頂けるとは限らないが、せっかく入って頂けるのなら気持ちよくまた入りたいて思ってもらえるような声掛けを心がけていきたいです。その為にも日々の関わりを大切にしていきたいと思ひます。

題名：入浴へのお誘い グループホーム無量荘

ユニット異動があり、入浴介助独り立ちをした頃、A様の入浴声掛けをさせて頂いた時、会話がかみ合わず、別なお話になってしまったり、A様が「お風呂？アンタ1人で入ってきな。」と口調強く言われてしまったりと初めての入浴が出来ず。私は自分はまだご利用者から見たら、新しく来た人“まだ信用出来ない”と思われているのかな、次に入って頂ければ大丈夫かな、と軽い気持ちでいました。次の入浴声掛けでA様のペースにのまれ失敗、また次の時も。何で私ほうまく出来ないのだろうと思う日が続き……。別の職員の声掛けを見ると同じように断られてしまふ様子を見て、“なんだ、私だけじゃないや” A様がお風呂イヤなだけじゃないの？と思いました。

入浴介助の日、A様本日入浴日で“どうせまた断られるだろうな、イヤだな……”と憂鬱になっていると、“A様とたくさんお話をするといいよ”と別の職員が私に声を掛けてくれ、私は“はあ、そうなんですね”と半信半疑で余暇活動時間、A様とお話をしたり一緒に外気浴をしたりと過ごしました。夕方、A様の入浴順番になり、“お風呂どうですか？”と声を掛けると“ど～れ、入ってみっか”といつもはお立ちにすらならないのにすんなりお立ちになり“どこ？”と脱衣所を探されたりと私はこんなにすんなり入って頂けるのかとびっくりしました。

入浴中は“いい気持ち”“ありがとね”とたくさんの笑顔を受けました。コミュニケーションはとても大事な事だとその日改めて思ひました。



帰宅願望

題名：K様の優しさ デイサービスセンター無量荘

認知症の症状が見られ、デイサービスをご利用のK様（女性）は、午後になると「自宅へ帰る。」と玄関まで行かれたり、外へ出て自宅のある方へ歩いて行かれたりされる方です。

ある時、暫く仕事を休まれていた息子様が、働きに出るようになりました。すると、「息子が帰ってくる前にいろいろやっておくんだよ。」「家が空っぽだから帰ってみるよ。心配なんだよ!」と午後になると「帰りたい。」という気持ちが以前より強くなりました。

いろいろな言葉かけやコミュニケーション・レクリエーションを提案しながら、無量荘で過ごして頂けるように職員みんなで試行錯誤をしていました。しかし、私たちの試みがうまくいく時ばかりではありませんでした。

どうしても来荘時から、「家が心配で心配でたまらない」という強いお気持ちの時がありました。いつも一緒に過ごす笑顔になる相性のいい職員との会話やお茶を飲んでも、帰りたい気持ちは変わりませんでした。午前中でしたが、やむをえず息子様に連絡して、一旦ご自宅にお送りさせて頂く提案をしました。その後、息子様から了承を得て、自宅にお送りさせて頂きました。そして、1時間程たってから再度お迎えに行かせて頂きました。お迎えに伺った職員は私ではありませんでしたが、さり気なく、初めてのよう、「デイサービスのお迎えにきました。」と伝えると「そうかい」と車に乗って来荘して下さいました。再度来荘されてからは、笑顔で過ごされ、強い「帰りたい」という気持ちは出ずに皆さまと一緒に帰り頂くことが出来ました。

「息子の為に、家に帰っていろいろやっておかないといけないんだよ。」というK様の不安になっているけれど、優しいお気持ちと、

「出来れば転んだり、色々やってケガをしちゃったりするのが心配だから、みんなと過ごしてもらえれば安心なんだけど・・・」とお母さんを思う息子様の気持ちと、これからもご利用して下さい下さる皆さまの気持ちを大切に出来るように、私たち職員は色々な対応を行えるように、知識を高め、互いに連携をして、柔軟なご支援が出来るようにしていかなければならないと改めて考えた出来事でした。

グループホーム無量荘

ご利用者のIさんが「子供が病気になったから帰る。」ある時は「お父ちゃんが亡くなったって連絡が来たから行かなくちゃなんねえ。車出してちょうだい。」と言われるので「今は夜だから車を出せる人がいないです。」と言うと「バス停はどこだ？ここから歩いて何分かかる？お金持ってねえから、いどこに電話してお金を借りるから電話をかけてくれ。」「2,000円位あれば足りるか？」と次々と言われます。そんなIさんに対して私は「そういう電話は来てないから大丈夫ですよ。」といい、Iさんも1度は「そうかい。」と言い居室と一緒に戻って下さるのですが、またしばらくすると同じ事を言って来られます。私は再び同じことを言い、加えて「今は夜だからいけないですよ。」と言うと興奮され「なんで止めるんだ！お父ちゃんが亡くなったってのにどうして行かせてくれねえんだ！」と大声で言われ、「出口はどこだ？」と階段の入り口のドアを開けられ、降りようとされた為ついて行きました。玄関まで行って開かない事を今は行けない事を解って下さるだろうか？など思いながら行きました。

声を聞いた職員がIさんの話を聞き「Iさん、今はまだ暗いからタクシーも呼べないですよ。明るくなったら電話をして呼びますから、それまでお待ち頂けますか？」と言うとIさんはさっきまでの興奮がおさまり、一緒に戻って頂きました。ただ止める事、行けない事だけを伝えるのではなく、Iさんに行けるとい希望をもたせて差し上げる事も考えていけば、興奮され大声を出される事もなかったのかもしれない。

Iさんの思いを尊重して接していれば、すぐに納得して頂いた事をIさんから教えて頂いたようにした。

送 迎

題名：送迎時の出来事 デイサービスセンター無量荘

○パート1

8年前のある夏の朝、一人暮らしの若年性アルツハイマー型認知症の女性 A 様をお迎えに伺うと、近所に住んでいる妹さんが送り出しに来て下さっていた。室内に入ると。室内は冷房が効きすぎており寒い状態であった。A 様の顔色も寒そうである。気持ちも同様に冷え切っているのか表情もなく、挨拶をしても返答ははっきり出来ず、動きもゆっくりである。妹さんの声かけもあり、やっと車(助手席)に乗って頂けたが、(数十メートルくらい走ったところで、車から降りたいと訴えられた。不穏な状況ではあったが、昔話などの声かけをしながら、やっと次のご利用者のご自宅までたどり着いた。この時すでに女性のご利用者 2 名が後部席に乗車されていた。4 人目のご利用者は日中独居で認知症のある女性利用者である。その方は人との関わりを楽しまれる方であり後部席に乗車いただき、他のご利用者との挨拶をして下さった。車が動き出したところで、A 様はドアを開け降りようとされたので、車を止めると鍵を開けて降りてしまった。お迎えの時とは違いすばやい動きであった。表情は硬いままである。声かけと共に後を追いかけてながら、デイサービス事務所へ現状を連絡し対応を求める。車は 4 人目の利用者のアパートの駐車場の真ん中にドアを開けた状態で置いたまま、また、ご利用者 3 名様を乗せたままである。アパートの住人が邪魔そうに見ていたため、A 様がどちらの方向に歩かれていくのか確認し、とりあえず残されたご利用者に声をかけ車を端に置き、すぐに A 様を追いかけて見失ってしまった。

急いでデイサービス事務所に連絡し指示を仰ぎ、手の空いている職員は近くを見回り探した。1 時間もしないうちに近所のコンビニエンスストアで発見。ほっとした。

発見後の A 様の表情は柔らかく笑顔も見られ、顔色も良くなっていた。交通事故などに合うことなく見つけ安心した。この時の送迎車は古いタイプでありオートロック機能はなく、助手席はチャイルドロックがない。A 様はこの事件が起こる前に 2 回ほど車から降りようとする行動が見られており、1 回は実際に降りて歩いてしまうことがあった。

この頃のデイサービス利用状況は認知症状も進行し、不穏な状況から建物を出たり入ったりの状態になっていた。この送迎で考えた事は、認知症のあるご利用者を複数名送迎する際は、職員一人での送迎は難しい事、車から降りようとされた事が続いた時に、送迎の対応を見直して置けばよかったのではないかと、乗って頂く座席も検討したほうが良かったのでは、A 様の状況に合わせた送迎対応が出来ればと後から思うことはあった。

A 様はその後、市内のグループホームへ入所され落ち着いて過ごされたと聞いている。

○パート2

8 年前のある秋の朝のお迎え時のこと。

認知症症状がある、80 歳代の女性 K 様をお迎えに行ったところ、体調が優れない様子。お嫁さんと孫娘さんが、車椅子に乗るまでを手伝ってくださった。

呼吸は辛そうである。家族からはこの状況を本当に体調が悪いのか、認知症状による症状なのか(わざと作っている)わからないので、利用してもらったほうが良いと話があり、送迎車(助手席)へ乗車して頂いた。

前回のご利用時は背中痛みを訴えていたことがあり仰向けに寝ることを嫌がっておられた。今回は送迎時から身の置き所がない様子。送迎は K 様お一人であったので、声かけをしながら、途中車を止めシートを角度を変えながら、無量荘に到着するも降りて頂くのも辛い様であり、看護師に指示対応をお願いすると、心臓の状況は良くないので利用はできない状況、帰宅して受診を勧めたほうが良いとアドバイスあり。ご家族へ連絡しお送りした。

その後、家族から救急車を呼んだが他界されたご連絡があった。やっとご利用に慣れた頃の出来事であった。

いつ何が起きるかわからない、突然起きる病気のこと(心筋梗塞、脳梗塞など)どんな状況になるのか、送迎時体調不良時の対応を学んだ出来事である。

緊急対応

デイサービスセンター無量荘

お盆が過ぎたけれど残暑がきびしいある朝の送迎の時でした。S様宅に着くといつもと違う様子で何か胸さわぎを感じました。おそるおそる玄関先に立ち、声をかけましたが返事がありません。居間の方を見ると茶色のものが点々と落ちており、リハビリパンツらしきものが脱ぎ捨てられています。私は急いで「Sさん、入らせて頂きます。」と声をかけ、居間に上がり、奥座敷の方を見るとふすまは開けられており、Sさんがベッドの上に横たわっておりました。「Sさん、どうしました。」と声をかけ、体に触れてみるとすでに硬直して冷たくなっていました。明らかにお亡くなりになれてから、数時間経過しているようでした。どうしようと思いましたが、とりあえず事務所に連絡だと思い、電話を入れると救急車を呼ぶことの指示を受け、「119番」に電話をしました。心マッサージの指示は受けましたが、もうすでに硬直している為、できないことを伝え、現状維持がいいと思われるのでお体にタオルケットをかけるのみで救急車を待ちました。救急車からの通報で警察の方も来られ、第一発見者として現場検証にも立ち会いました。

このような場合に直面した時、動揺してしましますが、冷静になり事務所に連絡を入れ、他の職員の助けをかりる事が大事だと身をもって体験しました。

デイサービスセンター無量荘

午前11時半を過ぎ、Y様に声をかけ、トイレに行って戴きました。普段からふらつきや異食がある為、トイレの中まで付き添わせて頂き、便器にこしかけて頂くとすぐに排便があるようでした。ストーンと落ちるような感じで多量の排便があり、急にY様のお体が前のめりになり、私の腕に倒れ込んでこられました。顔をうかがうと息をしていないようです。すぐにトイレにドアを開け、近くにいる職員に声をかけ、近くにあったソファに横になって頂きました。呼びかけに返事なく呼吸もありません。気道の確保をして心マッサージを直ちに行いました。30~40回ぐらい行うと呼吸がもどってきました。事務所では救急車を呼んでくれていました。救急車が到着するまでには呼びかけに返事があり、血圧が60mmHgぐらいにもどっていましたが、念の為救急車で受診となりました。排便によって急激に血圧が低下したとの事ですが、その日のうちに自宅へもどられたようでした。毎年、救命救急講習会の参加をしています。毎年の訓練は大切だなと感じました。

その他

題名：Aさんがお立ちいただくまで。 デイサービスセンター無量荘

私が無量荘に勤務して間もなく、大きな壁にぶち当たりました。私の声かけを認知症のあるAさんが嫌がるのです。トイレ誘導や、入浴への誘導の際に・・・

「Aさん。お風呂がわいておりますので、まいりませんか？」と言っても立っていただけず、「お風呂」という言葉がいけないのかと思い、「Aさん。あちらでお願いしたい事がありますので、こちらに来ていただけますか？」でも駄目。結局どのような言葉かけでもお立ちいただけず、先輩職員さんをお願いしました。その先輩が声かけすると、スウーと立って風呂場のほうへ・・・あまりにもスムーズにそして自然に。その当時、私は介護現場に勤めて3年の経験があったので、新しい職場（無量荘）に来てもある程度は出来るだろうと思っていました。正直ショックでした。「嫌われているのか？」「異性だからか？」いろいろ考えましたが答えは出ませんでした。

しかし、なんとか出来まいかとAさんを見ていると一つヒントが見えてきました。先程、声かけに成功した先輩職員も次は「やだよ！」と断られていたのです。と言う事は相性ではなかったのです。そこで今度は先程とは逆に私が声かけすると、見事お立ちいただくことができました。つまり、Aさんは1度目の声かけには全てNOなのです。1度目の声かけは悪役担当で2度目・3度目にAさんを助けるような感じで声かけするすると、100%無理なくお立ちいただけるようになりました。わたしはAさんを認知症のあるご利用者としかみつけていませんでした。だからお立ちいただけなかったのです。AさんをAさんとして接していれば、答えが見付かるのは早かったのかもしれない。

Aさんから、「私（個人）を見ていないからよ」って教えていただいたようでした。

題名：その人に戻る瞬間を見逃さない デイサービスセンター無量荘

デイサービスセンターご利用者のAさんがいらっしゃいました。Aさんはイスに座っている時にどうお誘いしてもはぐらかされてしまい、イスからお立ち頂けないのですがある日、職員が消火器を転がしてしまい、消火器から粉が噴射して部屋が真っ白に……

その時です。普段職員がお声かけしてもお立ちになってくださらないAさんがその時ばかりは職員のお声かけに耳を傾けて下さり、スムーズに避難する事ができました。

なぜ、普段はどんなに職員がお声かけしてもダメだったAさんがこの時はスムーズにイスから移動する事ができたのでしょうか？

きっと「本来の自分に戻る瞬間」があるのではないかと思います。それが挨拶だったり、こちらの他愛無い冗談だったり、色々あると思います。認知症という病気の世界に、こちらが入ろうとしても、うまくいかない事もあると思いますが、「本来の自分に戻る瞬間」が分かれば、その時になにがしたいのか、なにを伝えたいのか、聞き出すことができるのかもしれない。



題名：1人1人寄り添いながら デイサービスセンター無量荘

無量荘に来て下さっている利用者様、1人1人の大切な時間に御一緒出来るのは、とても貴重な時間だと思っています。

創作活動を利用者様と一緒に取り組み完成した時の表情はとてもいい顔をされます。その中でも1番心に残っているのは……

その利用者様は70代の男性で片マヒのある口数は少ない方でしたが誠実な方です。その日は利用者様を介護されている奥様の誕生日との事です。先輩職員が話を聞き、「何かプレゼントしませんか？」の一言から私もお手伝いをさせて頂く事に。

一つは寄せ植えのお花と牛乳パックに「はぎれ」を貼り付け、仕上げていく小物入れを作りました。マヒがありながらも元々器用な方で、あっという間に完成！！

その日の送迎で奥様に説明してお渡しすると、利用者様は照れた様子でしたが嬉しそうに見えました。今でも心あたたまる大切なエピソードの一つです。

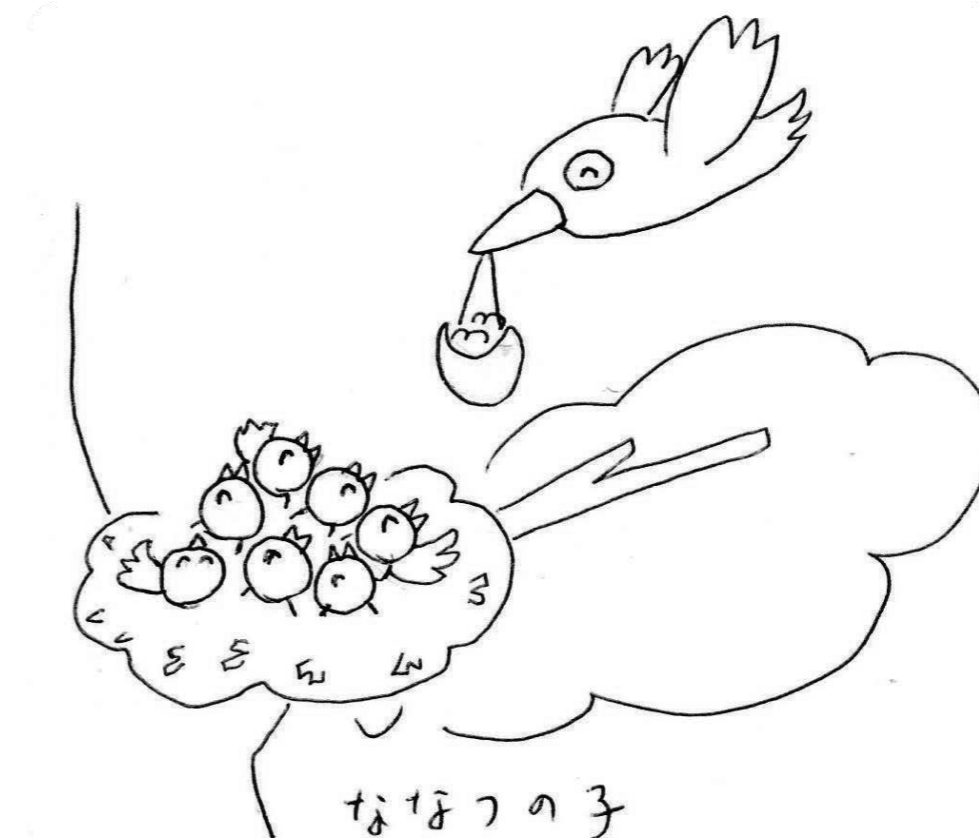
デイサービスセンター無量荘

Aさんは全盲で認知症のある方です。私が勤務する以前からご利用されておりました。Aさんは声が大きく体格もよく、少し苦手だなと感じておりましたが送迎やお話をさせて頂くうちにとても優しく人間的にも立派な方だと感じ、お話をしたり一緒に童謡を歌うことがとても楽しい時間になっておりました。

しかし徐々に認知症が進行するにつれて大きな声をだしたり、興奮したりする時が多くなってきました。昼食後にはベットで休まれるのですが、ある時「眠たいんだよ。寝かせてくれ！！」と言われた為、ベットに横になって頂くと不安が強いのかすぐに起き上がり、両手を振り上げ不安そうな表情をされます。「どうかしましたか？」「眠れないですか？」とAさんに近づきながら伺うとAさんは手を私の首元に持って行き、揺さぶりました。どうしたら落ち着いて休んで頂けるのか、Aさんの不安な気持ちをどうしたら受け止められるか考えめぐねておりましたが、ある時、ふっと一緒に童謡を歌った時のAさんの表情を思い出し、そばに寄り添い歌ってみてはどうかと思い、次の御利用日に行ってみました。“七つの子”の歌を横になっているAさんのそばに寄り添い歌ってみました。2～3回歌っているうちに不安な表情のAさんが、とても安らかで優しい顔になり、一緒に歌っていました。そうするうちに落ち着かれ少しの間でしたがうとうとと休まれました。

毎回必ず落ち着かれるわけではなく、なかなか落ち着かれない日もありましたが、利用者様の不安な気持ちに寄り添うという姿勢をAさんに教えて頂いたように思います。A様は照れた様子でしたが嬉しそうに見えました。

今でも心あたたまる大切なエピソードの一つです。



題名：思いのままに デイサービスセンター無量荘

建築関係の仕事をしてきたS様。こちらでも真面目な働きぶりは変わらず、部屋の「ふすま」を外しては隣の部屋へ運んで下さいます。はじめは私達もまわりの方々も驚きました。しかし徐々にまわりの方々もご納得は頂けなくても、またはしまったなぐらいに受け入れて下さるようになりました。そんなある日、S様が私の前で立ち止まりました。そしてS様は両手を私の脇に添え「ヨッ」とかけ声をかけました。

一瞬で私は気付きました。私は「ふすま」なのだ・・・迷う気持ちがなかったのかと言われてから嘘になりますが、私は何も否定せず、そのまま「ふすま」となり、隣の部屋へ運ばれて行きました。(もちろん足を付き横歩きです。)そして壁沿いに私を置くと「ヨシ！」と満足そうなご様子でした。まわりの方々も「何してるんだい？」などの声はありましたが、それはあたたかい、ほほえましい感じの物でした。

S様は他にもよく出かけられる方でした。向かう先はいつも決まっている様ではありませんでしたが、「Sさんどちらまで行かれるのですか？」とお声かけさせて頂き、目的地があってもなくても「ちょうど私もそちらに行く所でした。」と御一緒させて頂きました。

時にはぐるりとまわり、こちらに戻れるよう「こちらの方が近いですかね。」と言いながら誘導させて頂いたり、時には歩けるだけ歩いて頂き、こっそりと他のスタッフに連絡を取り、車で迎えに来て頂き「ちょうどS様に会いに来た所でした。」や「ちょうど同じ所へ向かっているのだから」と声をかけて頂き、こちらへ戻って頂いたりしていました。目的地ではないというようなご様子の時は「とりあえずお茶でも飲んでいきましょう。」と声をかけ中に入させて頂きました。

1日のうち、何度か同じように出かけられる事もありました。現場のスタッフが時には2人も抜けてしまうという現実もありましたが、体調等の心配が無い限り、外出して頂きました。

「ふすま」になりきった事も、外に一緒に出る事も正解だったのかはわかりませんが、S様の満足そうな顔を思い出すと思いのままに行動して良かったのではないかと私は思っています。



題名：Kさんが安心された瞬間 デイサービスセンター無量荘

夕方近くになると落ち着かない事があり、立ち上がったたり行ったり来たりされ、何かを探されている様子・・・

又、玄関にあらわれ靴をご自身で出され、今にも帰りそうな仕草をみせているKさん？私が近づくと「洗濯物をこまなくちゃ！！」とお話される。私は何も考えずにその場しのぎの対応をしてしまいました。

「まだあと少しお時間がありますのであちらでお茶でもいかがですか？」とお話しするも険しい表情で「いいよ！もう帰るんだから！！」とお話される。

私は引き留めようとする気持ちからあせりさえ、感じてしまいました。でも話題を変え、息子さんのお話をすると笑顔に戻り、とてもうれしそうな表情に変わりKさんもお話しして下さいました。この事によってKさんの気持ちを受け止める事が必要という事を実感しました。

題名：外出マジック！！ グループホーム無量荘

日光東照宮がライトアップをした時にご入居様と一緒に去了。行く前までは「私は歩けないから近くで見ているから・・・」や「寒いし、足が痛くなっちゃう。」とおっしゃっていたご入居様が歩きにくい石畳の所を「池の周りに彩る紅葉の綺麗さ」と「普段なかなか来ることが出来ない場所」という事もあり、「私も行くよ。」とおっしゃって一緒に見学できました。

その時のご様子は「綺麗だね～」と「足の痛い事や寒さ」は気にされなくなりました。それ以降も「見事だったね～」と。

まさに外出マジック！！

「また行こうね。」と、あまり散歩に出られない方が散歩に行かれる回数が増えた・・・気がする。



題名：ご入居者から学ぶこと グループホーム無量荘

☆お風呂好きのA様は、いつも気持ちよさそうに湯船に浸られる。頃合を見てお声かけさせて頂くが「わかったよ。」と言われるものの、一向に出られる気配はなく…、浴槽から出て頂くのに悪戦苦闘する日々。ある時、「出て頂けないでしょうか？」のお伺いから、いつの間にか「出てください。」と言っていた私に対し「出て行けというのか！」とお怒りにる。

《反省》

あの手この手を使っても上手くいかない状況から、雑な対応になってしまったのではないかと自分では強い口調で言ったつもりはないが「出て行って。」と言われたように感じさせてしまった。何気なく使っている言葉ひとつで不快にさせてしまうことの難しさに気づく。次からは「上がって頂けないでしょうか？」の声かけと共に、笑顔を忘れないようにした。

☆感情の起伏の激しい、何でもご自分でやらないと気の済まないB様。入浴後の更衣の際、肌着を後ろ前に着られてしまう。そのことに気づいた私に、一瞬の迷いが…「やっと着られたのに直してほしいと言ったら、怒り出してしまうのではないか・・・」そんなことを考えている間に、ご本人が肌着に気づかれ、顔色が変わると同時に「こんちくしょう！！」と激怒。私を睨みつけながら着替え直されるが、不機嫌さはしばらく続く。

《反省》

私の心の中には、怒鳴り出されたら面倒という気持ちがあったのだと思う。誰でも洋服を後ろ前に着ていたなら、気持ちの良いものではない。気づいたらすぐにお伝えするは当たり前なこと、上手な伝え方を考えれば良かったのだと思う。また、間違えることなく着替えられるようにさりげなく支援することが大切だと気づく。

☆マイペースなC様。朝食を済まされた後、服薬前に居室に戻られトイレへ。その後、ベッドで休まれる。薬をお持ちし、休んだばかりのところ起きて頂き、薬を手のひらにおのせしたものの拒まれ、ばら撒かれてしまう。

《反省》

体の痛みもあったC様にとっては、ベッドに横になったところを、訳もわからず起こされてしまったとの思いがあったのではないかと。薬のことをしっかりと説明して、納得して頂いてから行動すれば良かったのかもしれない。また、居室に戻られる前に服薬のタイミングを見計らう配慮も必要であった。

その他、諸々。失敗と反省の繰り返し。心に余裕がなく、自分本位になってしまい、ご入居者の気持ちを置き去りにしてしまった結果だと思う。焦るほどなぜか上手くいかないもので、こちらの気持ちを見透かされているようで、人生の先輩には適わないと思い知らされる。ご入居者から教わることは多く、常に学びの場である。この仕事は、体力はもちろんのこと、頭と心を使う。だからおもしろいし、だから、続けられるのだと思う。

題名：私たちが変われば グループホーム無量荘

私は23年度の実践者研修に参加しました。その時のユニットの状況は、被災者の方を2名受け入れし、9名満床のところ10名入居。また、ご入居者のADLの低下も著しく、対応に追われ、ご自身からの訴えの少ない方との関わり方が薄くなってしまっていました。そのような環境での生活でO様の傾眠が増え、笑顔も少なくなり、時には大声で怒鳴ったり暴力もみられるようになりました。

そこで、職場実習の対象者としてO様に取り組みさせていただきました。まず、O様の1日の傾眠時間を調べてみました。平均して2.5時間傾眠されておられました。午睡の時間を含めると5.5時間も職員との関わりがないということでした。次にO様の心情を理解するためにセンター方式（認知症ケアをもっと楽に！ 編者永田久美子氏）を使用し、ユニット職員全員で話し合いをしました。それにより、個々が、O様をどのように思い、関わっているのかを知ることができました。また、情報の交換もでき、アプローチの方向も見えてきました。アプローチする時間帯や内容を決めることでだれもが関わるができるようにしました。また、気づきノートを作成することで、どんなアプローチが効果的だったか、職員全体で把握できるようにしました。

気づきノートの内容は、「日時」「私達の関わり合い」「O様の様子」「介護者の思い（気づき）」というものです。この取り組みの結果、O様の傾眠は、1時間弱になり、1.5時間以上も減りました。

時折みられた怒鳴り声や暴力は一切なくなり、笑顔はもちろん、ご自身からの発語が増え、他のご入居者との会話までみられるようになりました。劇的なO様の変わり様を目の当たりにした私たちでした。

題名：突然の出来事 デイサービスセンター無量荘

18年前のお送り時の出来事

70歳代の男性、ほとんど視力はない状態である。脳梗塞後の後遺症から言葉が出にくく、構音障害があった。奥様と二人暮らしである。

デイサービスご利用に慣れ、他の利用者のお話に耳を傾け笑顔で過ごされることも増え、自宅でも短時間の留守番も出来るくらい元気になっておられた。

ある夕方のお送り時に奥様は不在であり、こたつに座って頂くまでのお送りの対応をした。

いつもとお変わりなく、ありがとうと手を振りご挨拶をしてくださった。

次の日にご家族から連絡があり、お亡くなりになったと聞いた。

昨日のご利用、お送り時までお変わりなかったのに・・・。

夕方、奥様が戻ると、部屋で倒れており救急車を呼び、病院まで行ったが亡くなったとの事。

別れは突然に来るものもある。高齢の方はいつ急変するか分からない。その日その日を大切にしたいと思った出来事である。

そのご利用者の笑顔は今も忘れません。

デイサービスセンター無量荘

私が A 様と初めてお会いしたのは今から 1 年ほど前になります。ご利用当初は顔つきも陰しく笑顔もなく、口癖が「嫌だなあ・・・」と仰る方でした。慣れない環境の為、落ち着かず、常に玄関を気にされ「嫌だ・・・」と仰っていました。

「この方は家に居た方が良いのではないか・・・」という職員の声も聞こえてきました。私にとっても「A 様は少し苦手な利用者様」でした。私のそんな思いは A 様に伝わります。席を立たれ玄関まで向かわれます。私は「何とか落ち着いて座って頂きたい。」という思いから、お引き止めする言葉掛けしか出来ませんでした。当然納得はして頂けず外へ出られました。興奮され、イライラされながら「この車に乗るんだよ！」と大きな声を出され私に「わからない人だねえ・・・」と仰いました。私は A 様がますます苦手になり、積極的にかかわる事が出来なくなってしまいました。

そんなある日、A 様を担当されていたケアマネジャーさんと A 様が顔を合わされた時、A 様がニコッと笑われ、とても楽しそうにお話をされていました。初めて見る笑顔でした。

「信頼関係が出来ているんだなあ・・・」と思い、私もそんな風になりたいと思いました。ケアマネジャーさんのお話ですと A 様はとてもユーモアがある方なんですとの事でした。私も肩の力を抜き、リラックスした形で接していければ・・・と感じました。

ちょうどそんな時、実践者研修の募集があり、学ぶ機会を頂きました。研修は色々な事を学べ、とても楽しく勉強させて頂きました。研修の中で一番印象に残っている講師の言葉は「利用者様を何とかしようではなく、私達が変わる事です。」という言葉でした。まさしく私に言っている言葉だと思いました。その言葉を聞き、今までの自分を振り返った時に私はご利用者様を何とかしようという思いで対応させて頂いていた事に気付かされ、ハッとしました。「何とか落ち着いて頂きたい。」とその場しのぎの言葉掛けしか出来てなかった事に反省しました。

私は研修の対応を迷わず A 様にさせて頂きました。積極的に関わらせて頂きました。席を立たれ、玄関まで向かわれても焦らず落ち着いてご一緒させて頂きました。A 様のしたい様に行きたい様にして頂きました。不思議と私の心は穏やかでした。言葉を掛けるにも今までとは違います。A 様を気遣い「暑くないですか？」や「喉渇きませんか？」等の言葉掛けをさせて頂くと「暑いねえ」「喉がかわいたね」というお返事を返して下さる様になりました。A 様に少し近付けた気がしてとても嬉しかったです。以前の様な気持ちはなくなっていました。A 様との会話がとても楽しくなり、笑顔も見せて下さるようになりました。大きなきゅうりを 1 本美味しそうに丸かじりされた事もありました。大笑いをして下さった事もありました。環境になじんで下さった事がとても嬉しかったです。私は A 様から真剣に向き合う事の大切さを教えて頂きました。今後もその気持ちを忘れず、一人一人の利用者様と真剣に日々を過ごさせて頂きます。



題名：ご利用者様の自由な時間の過ごし方 グループホーム無量荘

新しく入居されたご利用者様が居室で読書をされているのを目にし、「お部屋で本を読んでいるのを見かけましたけど、お好きなんですか？」と声をかけさせて頂く。

「午後はする事もないし、暇だから・・・今読んでいる本、もう少しで終わるけどね、退屈しのぎだから」と笑っておっしゃる。

「そうですか・・・じゃあ、何か良い本探してみます。」

「ありがとうございます。」

施設内に置いてある“90 歳の妊娠”の本を「タイトルを見るとえっと思いますけど読んだ職員が良い本だと言っていましたけどどうですか？」とお持ちする。

「あら、本当ね」と笑いながら興味を示され「読ませて頂きます。」と受け取って下さる。後日、「ありがとうございます。うまく言えないけどとても良かったです。夢中で読んでしまいました。又、お願いします。」と言って下さる。細かいと目が疲れると思い、文字の大きい読みやすい本を 2～3 冊お渡しする。その中で「命」「生きる」の本には感動しましたと言って下さいました。本探しも私 1 人では限界があるので、多くの職員に声をかけ協力してもらっています。たまには雑誌などもいいのかなと色々考えるのも楽しいものです。



ボランティア様から一言

記念誌を発行するにあたって、普段から福聚会に関わって下さっている方から、一言お言葉を頂きました。

◎お名前：わたすげ 関谷アヤ子様（出張ヘアースタイル）

「お世話になります。」と玄関の戸を開けると台所からの美味しそうな香り、スタッフの方々のやさしい言葉、そして我が家の様なたたずまい、暖かさを感じます。ご利用者様も安らぎの場所と思います。私はそんな無量荘さんが大好きです。これからもお世話になります。

◎題名：慰問ライブに寄せて お名前：大森幹彦様（歌謡ショー）

20周年記念、誠におめでとうございます。昭和歌謡を歌い継ぐとの志をもって、施設慰問をしております。この度ご縁がありまして、無量荘様に最初の慰問が平成26年9月でした。1時間にわたり13曲のライブでした。1曲毎にたくさんの拍手をいただき、又、タイミングよく掛声を下さる方がいて、とてもホメ上手です。この声聞けば、歌い手としてはもうノリノリで気持ちよく歌いました。そうしてライブ終了後に皆さんとの茶飲み話がまた楽しいんです。生まれ故郷にいるような雰囲気でお話ができ、普段着の私がここにあう無量荘が大好きになりました。以後、13回の訪問を数えます。お馴染みのお顔ばかりで今では相性もバッチリと思っています。今後もお声がある限り喜んで、心に染みる名曲をお届けしたいと思っております。

◎題名：笑顔 お名前：春風 櫻井利夫様（日本舞踊）

私（春風）が無量荘へお伺いするようになってから7年、何故7年の月日を同じ気持ちで、お伺い出来たのか、何の違和感もなく板荷へ足を運べたのか、私にも分かりません。多分、利用者の方々、スタッフの皆様の笑顔があるから。そしてこれからも私（春風）の足は板荷へと向くでしょう。

「笑顔に勝る化粧なし」

◎題名：日溜まりの中で お名前 和嶋みわこ様（絵画）

「おはようございます。」と声をかけると、「今日は何をするの?」と声が帰ってきます。覚えていてくれたんだ。とホットして何故か嬉しい。最近ではクレパスで描く作品の仕上がりが遅くなり、私の計画時間が追われるようになった、動きづらい指に力を入れて賢明に描いてくれる、出来ない時は「デキナイヨ。」とってくれるようになった、すばらしい交流ではないか。春の日溜まりのように暖かい空気が私は好きである。帰りには「ありがとう。」とってくれた。こちらこそ「アリガトウ。」ですよ。

◎お名前 根本 龍瑛様（書道）

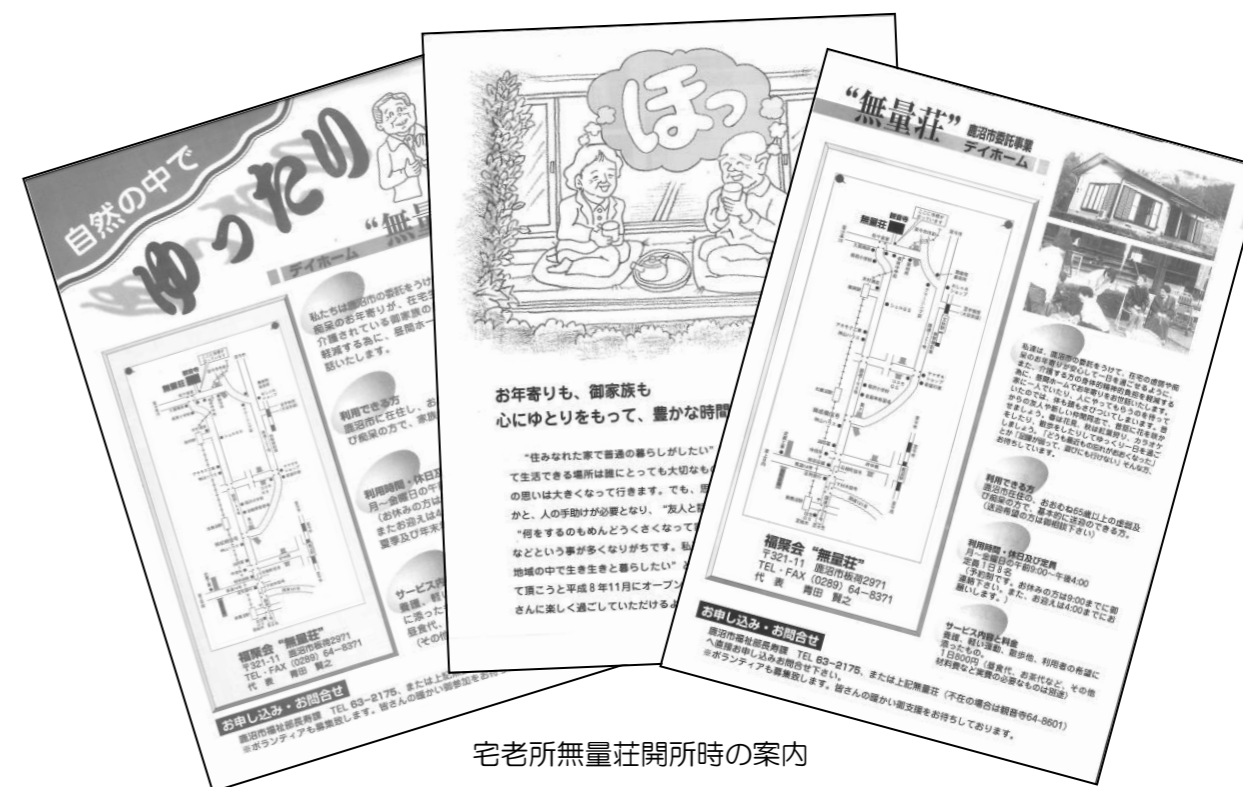
書道体験として入所の方々と毛筆にて漢字の練習、和やかな雰囲気の中で学んでいます。無量荘の職員の方々には良きお手伝いをして頂いています。

職員の方に、入所の方々が自分の書道を苦笑いしながら見せると、やさしく、楽しそうに聞き、見て上げる姿は指導する者としては心温まる思いです。12月には作品の小展覧会もあります。これからも無量荘の職員の方々のご協力を戴き活動出来たらと思います。

普段から職員が気をつけている事

普段から福聚会職員が気をつけている事をまとめてみました。介護をするに当たってなにかしらのヒントになればと思います。

- 「割れ窓理論」を知ってから散らかっていたらすぐ片付ける。（特に書類のある机）
- 夜勤時、翌日出勤者のコップを取り易い位置におく。（何となく仕事の始まりが気持ちよくなりそうな為）
- 仕事の時はご入居者一人ひとりに一回以上笑ってもらえるように接する。
- 1つの出来事に対しいくつかのパターンを考える
- 話している自分の声の大きさ・トーン・話の内容が相手の方にあっているか。
- 自分の話ばかりになっていないか。
- 室内で足音を立てないようにつま先で歩いている。音のなりやすい場所では忍び足であるいている。
- ご利用者同士の会話に気を付けている。（トラブルにならないように、耳が遠い方も会話がスムーズで楽しめるように、皆さまの会話の邪魔にならないようにさり気なく様子を確認している）
- 時と場合によりますが笑顔でいる事。



宅老所無量荘開所時の案内

特定非営利活動法人福聚会
20周年記念誌協賛ご芳名（順不同）

- 真言宗智山派
観音寺様
- 青木税務会計事務所
税理士青木寿恵様
- 鹿沼労務管理事務所
所長 福田英昭様
- 池田屋鮮魚店
池田喜一郎様
- 加藤喜久様
- オフィスC
川田浩也様



デイサービスセンター和久井亭

特定非営利活動法人 福聚会

〒321-1111 栃木県鹿沼市板荷2971-1

TEL:0289-64-8371 FAX:0289-64-8372